

農業クラブ全国大会「開催準備要項」

-持続可能で適正な規模・内容等をめざす大会運営のために-

本開催準備要項は、全国大会を持続可能で適正な規模・内容等をめざす大会として準備運営するための叡智を結集したものである。

1 全国大会の目的

農業クラブ員の学習内容の定着と三大目標「科学性」「社会性」「指導性」を高めることを目標として、交流や研究及び発表等の自主的、主体的な活動を推進することを目的とする。

2 実施種目等

全国大会における実施種目等は以下の通りとする。

- ①大会式典
- ②代議員会（理事会・代議員会）
- ③クラブ員代表者会議
- ④プロジェクト発表会
- ⑤意見発表会
- ⑥平板測量競技会
- ⑦農業鑑定競技会

3 公開競技等

以下の種目は公開競技として、大会事務局の判断により開催することができる。

- ①家畜審査競技会
- ②農業情報処理競技会

4 大会運営

- ・大会はブロック連盟が引き受け、単位都道府県連盟が企画と運営を担当する。
- ・同一ブロックの中で各種会議や競技等を、複数都道府県にまたがって開催する共同開催方式とすることもできる。（例：平成 25 年度首都圏大会）
- しかし、これにより現在確定している開催順番に変更はない。

5 大会予算

①予算規模

- ・大会事務局は、上記種目を行うための最小限の予算を組むものとする。
- ・全国大会への出場や入賞経験は、生徒の進路に影響するものであり進路保障の観点からも、現状の実施種目は今後とも堅持すべきものである。
- ・一方、現在の大会参加費は一人 4,000 円で、大会運営に占める参加費収入の割合は 20%程度に過ぎない。このことから参加費を 1,000 円値上げして 5,000 円とする。これにより参加費収入は総

予算の 25% 近くまで上昇する。

- ・加えて、平成 28 年 10 月からは消費税が 8 % から 10 % へのアップが予定されており、他の物価の自然上昇も加味すると、しかるべき時期に参加費を増額することはやむを得ないものと判断できる。
- ・以上のことから 28 年度（大阪大会）より、5,000 円に値上げした参加費で予算を組むものとする。但し、運営には一層の経費節減が求められる。

②日連からの大会費

- ・日連大会費は 1,200 万円とする。（前年度に 200 万円、実施年度に 1,000 万円配布）
- ・これは会員一人 136 円（年会費 380 円の 36%）に相当し、大きな比率なため年会費増額なしに大会費を増額させることは極めて困難であるが、今後増額については多方面の検討を重ねる。

③協賛金、広告費

- ・開催数年前から大会事務局を設置し、大学・短大・専門学校等の上級学校、並びに関係団体・企業からの協賛活動を早期に着手する。
- ・大会事務局は、日連並びに既開催事務局から、既に協賛等支援を頂けた上級学校、関係団体・企業・広告代理店等の紹介を受け協賛活動を推進する。

6 実施種目等細目

①式典

- ・大会式典は、農業クラブ活動の最大の成果発表の場であり、参加者が感動を味わえる場所でもある。さらに、関係者に P R する大切な場所でもあるので、多くの関係者が参加できる施設での開催が望まれる。
- ・大会式典は、原則として全員収容規模の会場で行う。しかし、開催都道府県や会場の事情により全員収容できない会場で行うことも許容される。
- ・会場選択において、特設ステージや音響等を設置すると（仕込みやリハーサル期間の借用も含めて）相当の経費がかかることを予め想定しておく必要がある。極力、既存のステージのある施設で対応する。
- ・公共施設や教育活動使用による借用費減免制度などを早い段階から検討する。
- ・式典では、「開会式」、「成績発表」、「プロジェクト発表会」と「意見発表会」の各分野最優秀者による発表、及び「閉会式」を行う。
- ・「歓迎の集い」は、基本的に実施しない。
ただし、大会事務局の判断により実施も認められるが、軽微なものとする。
- ・式典終了時間は 12 時 30 分を超えないものとし、遠隔地からの参加生徒の帰宅に配慮する。特に「開会式」における時間の管理や幕間のつながりを円滑にするなど十分な事前調整を行う。
- ・全員収容できない会場の場合は、ネット配信するなど会場に入りきれないクラブ員に配慮する。
ただし、録画をネット上に残すアーカイブは画像の悪用を避けるため当分の間行わない。
- ・大会結果速報は原則として印刷配布せず、ネット配信とする。
- ・大会誌軽量化と費用節減のため、過去大会のスローガンや最優秀一覧等のデータは日連及び

大会ホームページに掲載し、大会誌には省略することができる。

- ・会場には「地域の農業展」及び「日連コーナー」を併設することができる。
- ・会場には協賛頂いた「大学・専門学校・企業等紹介コーナー」を併設することができる。
- ・看板、横断幕等は業者には発注せず、極力学校で作成する。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。

② 代議員会（理事会・秋季代議員会）

- ・代議員会は、出席者の多くが、式典リハーサルのため会議終了後すみやかに式典会場に移動する必要があることから式典会場の近隣が望ましい。
- ・学校の施設や教室を使用してもよい。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。

③ クラブ員代表者会議

- ・農業クラブの全国大会はただ単に競うだけでなく、生徒の「社会性」「指導性」を養うことを目的としていることからクラブ員代表者会議は必須とする。
- ・会場は学校の施設や教室を使うことを最優先とする。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。
- ・講話は行わず、事例発表と交流に時間をかける。
- ・指導助言者と司会進行の生徒は旅費軽減のため極力近県に依頼する。
- ・各会場の発表はプロジェクター1台限定とする。
- ・「クラブ員代表者会議の事例発表・プロジェクト発表・意見発表の要旨集」は必要数発行し頒布する（例：首都圏大会価格 1,000 円）

④ プロジェクト発表会

- ・実施担当校の体育館、視聴覚ホール、教室等を使うことを最優先とする。
- ・会場を借りる場合でも、運営生徒の移動費（貸切りバス等）が発生することから、運営校周辺で生徒が直接移動できる会場が望ましい。
- ・公共の公民館施設でも実施可能である。
- ・発表会場のスクリーンは1枚とする。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。

⑤ 意見発表会

- ・実施担当校の体育館、視聴覚ホール、教室等を使うことを最優先とする。
- ・公共の公民館施設でも実施可能である。
- ・発表内容が重視されるので、音響等にコストをかける必要はない。
- ・会場を借りる場合でも、運営生徒の移動費（貸切りバス等）が発生することから、運営校周辺で生徒が直接移動できる会場が望ましい。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。

⑥ 平板測量競技会

- ・現在、測量器具の製造は終了し、在庫のみで対応している現状がある。
- ・実施担当校のグラウンドや施設を使うことを最優先とする。
- ・審査員を開催県の行政機関や測量関係機関へ依頼することもあるが、打ち合わせ会の回数は極力削減し2回程度とする。さらに、旅費は派遣元をお願いすることも考えられる。
- ・ゼッケン等次年度大会で必要な物品は極力引き継ぐ。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。

⑦ 農業鑑定競技会

- ・農業鑑定競技は、単位クラブから直接エントリーできる唯一の競技で、全国のクラブ員のモチベーションアップにつながっている。参加者数も1,000人を超え、全国大会の活力の1つである。
- ・実施担当校の体育館を使うことを最優先とする。
- ・会場等に華美な装飾は行わない。
- ・審査員（問題作成委員）は同ブロック内に依頼し、旅費は所属都道府県連盟で負担する。
- ・本大会までの審査委員打ち合わせ、作問委員会はメール等を活用する。
- ・採点はマークシート方式とし、機械で処理できる問題文とする。
今後、農業鑑定競技実施基準に書き込む（基準書の一部改訂を伴う）。
- ・鑑定問題写真集及びCDは、写真撮影の上、事前注文分を発行し頒布する。

7 その他大会運営に関すること

① 審査会

- ・各種競技会の結果はメールで第一次的に受け取り審査に入る。
- ・審査集計シートは各競技で、今後とも引き継ぎ、改善する。
- ・総審査会は、各競技の審査長が来場して再度確認して決定するため、各審査会の終了時間帯を早める。審査長の移動は（タクシーを利用せざるを得ない時間帯が多いが）極力公共交通機関を利用する。

② 協賛金活動

- ・協賛金は今後とも大会事務局が中心となって依頼していく。
- ・農学系大学・短大・専門学校等から協賛をいただいたリストを活用して継続し、一年でも空くことのないよう留意する。
- ・協賛金5万円以上の団体・個人等は、大会式典に来賓としてお招きする。生徒の発表や運営する姿を通して、農業高校や農業クラブに対して今まで以上に高い評価をいただけるようになり、生徒の進路先拡大に貢献できる。
- ・日連事務局からも協賛依頼を行っているが、開催地との関係で対象は限られる。
日連事務局は、関係省庁及び来賓との連絡調整業務が主担当となる。
- ・協賛活動において、物品提供なら協力いただける企業もある（例；：IT園のお茶、K社のおこし）。

- ・印刷業務を補助していただける企業もある（R科学社の印刷機）。

③ 旅行業者

- ・会場、宿舎、交通切符、貸切バス手配等は、学校サイドだけでは対応できないものも多いので、準備段階から信頼のおける適切な旅行業者の協力を得ることは必須と言える。
- ・農業クラブ活動や全国大会の支援方法を熟知している業者もある。

④ 印刷及び印刷業者、発送業者

- ・大会誌、大会報告書、発表要旨集は後々まで残る資料であるため、今後も業者による印刷製本を行う。
- ・実施大綱、実施要項は協賛金活動に必要なため業者による印刷製本を行う。
- ・大会ポスター（大型）は必要枚数印刷するが、チラシ（A4サイズ程度のもの）は効果が薄いので作成しない。
- ・印刷業者に出す必要のないものは、校内印刷する。
- ・印刷業者は、多くの生徒や関係者の学校名、氏名等を印刷する関係から信頼のおける適切な会社と契約しておく必要がある。大会申込締切日から大会誌完成まで1ヶ月という極めて短い時間に数度の校正から製本・配送・袋詰めまで多くの工程がありミスや遅れは許されない。さらに、申し込み後の変更依頼も相当数対応しななければならないのが現状である。
- ・大会速報は原則として印刷配布せず、ホームページ掲載とする（再掲）。これにより経費節減と、深夜の印刷業務、速報配布時の各種トラブルが防止できる。
- ・印刷物発送業務は相当量あり、メール等の活用によりかなり費用節減できる。
- ・メール送信に替えることによりさらに節減できる部分もある。各都道府県連盟事務局に送信しデータ転送してもらう方法、直接全単位クラブに送信する方法とがある（アイノートを活用する）。

⑤ 大会記念品

- ・大会記念品は、基本的に赤字になるので積極的には作成しない。
- ・各大会の判断により、作成することができる。
- ・日連グッズ（バッジ、タオル、CD等）は大会で販売することができる。

⑥ 大会関係物品

- ・過去大会や近県で開催された全国大会の引き継ぎ物品等あれば譲り受ける。
- ・必要な物品は、次年度大会開催事務局と共同で購入する方法もある。
- ・学校で作成できるのは、極力大会事務局や担当校で手作りする。

⑦ 運営補助生徒・職員の食事

- ・手弁当で行う大会であることから運営補助生徒・職員の食事の弁当は準備しない。
- ・これにより相当額の経費が縮減できる。最終的には10%近い経費が縮減可能となる。

8 付則

※ 本準備要項は、平成 28 年度（大阪大会）より適用する。

※ 本準備要項は、今後も不断に検討を続けるものとする。

付記 平成 26 年 11 月 22 日 制定施行